



広報みよしができるまで

①7月号のお囃子特集の際、インタビューをした時の取材メモ。`笛は吹くのではなく、鳴らす。`という印象深いコメントは目立つようにしておく。②7月号の表紙、獅子舞の撮影前のセッティング。上富小学校の教室に手作りのスタジオを作った。③広報みよしはデザインから入力全てを職員が行っている。indesignというソフトを使用。写真の切り取り等も全て職員が行うことで、費用を抑えることが可能になっている。④文章に誤りがないかチェック(校正)。修正するときは赤ペンで。⑤納品された広報。全世帯にシルバー人材センターが配布し、さらに鶴瀬駅、みずほ台駅、ふじみ野駅や各出張所にも置かれている。

広報の作成は各課からの原稿をもとにページ数を決め、特集記事をどうするかを決めます。特集記事は特に、住民の皆さんに興味を持ってもらえるよう、念入りに心を込めて作っています。

広報担当の声



広報担当：佐久間
入庁11年目。広報配属の前は介護保険と固定資産税を担当。

広報担当となり2年。広報担当以前にカメラの知識や印刷物を作った経験は全くなく、担当者同士協力し合い、なんとか今までやってきました。`住民の目線で作る。……`。各課から来た原稿は必ず自分が理解し、不明な点は担当に確認し、お役所言葉を使用せず、わかりやすい紙面づくりを心がけています。写真撮影の時は`脳裏に焼きつく写真`を意識し、紙面は写真を活かしつつ、要点を絞り、文字数を極力減らし、一目で『読みたい』と思っただけのデザインを常に意識しています。特集の企画・取材・写真撮影・編集を毎月こなすのは大変ですが、`広報がよかった` `写真がいい` との声をいただくと苦労も吹き飛びます。読む価値のある広報づくりをこれからも取り組んでいきます。

取材先などで、「お金をかけているからよくなった」「人数をかせぎすぎではないか」といった意見をいただくことがあります。しかし前述したDTP方式にしたことで、以前よりも大幅に費用を安くでき、皆さんによりよい広報をお届けできるようになりました。広報みよしを担当している部署の秘書広報係は4人。そのうち広

主に2人で広報を作る

「広報みよし」がどのように作られ、皆さんのお手元に届くのかご存知でしょうか。印刷以外の工程である「企画・取材・撮影・紙面レイアウト・デザイン・文章作成・入力」の全てを町職員が行っています。イメージとしては『複数の異なるチラシを職員が作り、完成したデータを業者に渡し、印刷だけしてもらおう』ようなものです。この方式を「DTP」と言い、三芳町では昨年の6月号からこの方式で広報みよしを発行しています。



職員が企画・取材・撮影・デザイン・文章作成・入力などの全てを行う

広報みよしの裏側

毎月発行され、全戸配布している広報みよし。どのように作成され、職員はどのような思いで広報を作っているのか、普段目にする広報の裏側に迫ります。



全国広報コンクール組み写真部門で全国4位に輝いた平成24年12月号の見開きのページ。

読む価値のある広報を皆さんに届けたい

報みよしを主に担当しているのは2人。広報を作成するだけではなく、秘書業務やホームページの管理なども行い、取材や撮影は係で分担しながら広報を作っています。また、紙面に誤りがないかを確認をする「校正」は、念入りに係全員で行います。

いくら良い内容の広報を作っても、`手にとり、開き、読んで`もらわなければ意味がありません。まずは手にとってもらうため、表紙にインパクトのあるものを使うことを心がけています。しかしせっかく開いても、面白味のないデザインや内容では意味がありません。皆さんが`読んでみたい`と興味をわくような内容の記事やレイアウト、紙面づくりを常に意識して作っています。

広報みよしは町の大切なお金で作られています。ですから、最低限の費用で最大限、魅力のあるものを作り、皆さんに届けていかなければなりません。『読む価値のある』紙面を目指して広報担当者、編集作業を日々行っています。

広報みよしの“こだわり”3つのポイント

POINT01 写真



『脳裏に焼きつく写真』を心がけ、表情豊かに楽しく素敵な写真を撮ることを意識し、職員が撮影を行っています。広報みよしの「肝」とも言えます。

POINT02 文字・文章



ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用。要点を絞り文字を減らし、シンプルな内容に。

POINT03 デザイン



読んでもらうのではなく、『読みたい』と思わせる紙面を常に考え、見て楽しい、読んで面白い広報をお届けできるように毎号、頭を捻っています。